

# 衣服

## ～多様な生活者と ユニバーサルデザイン～

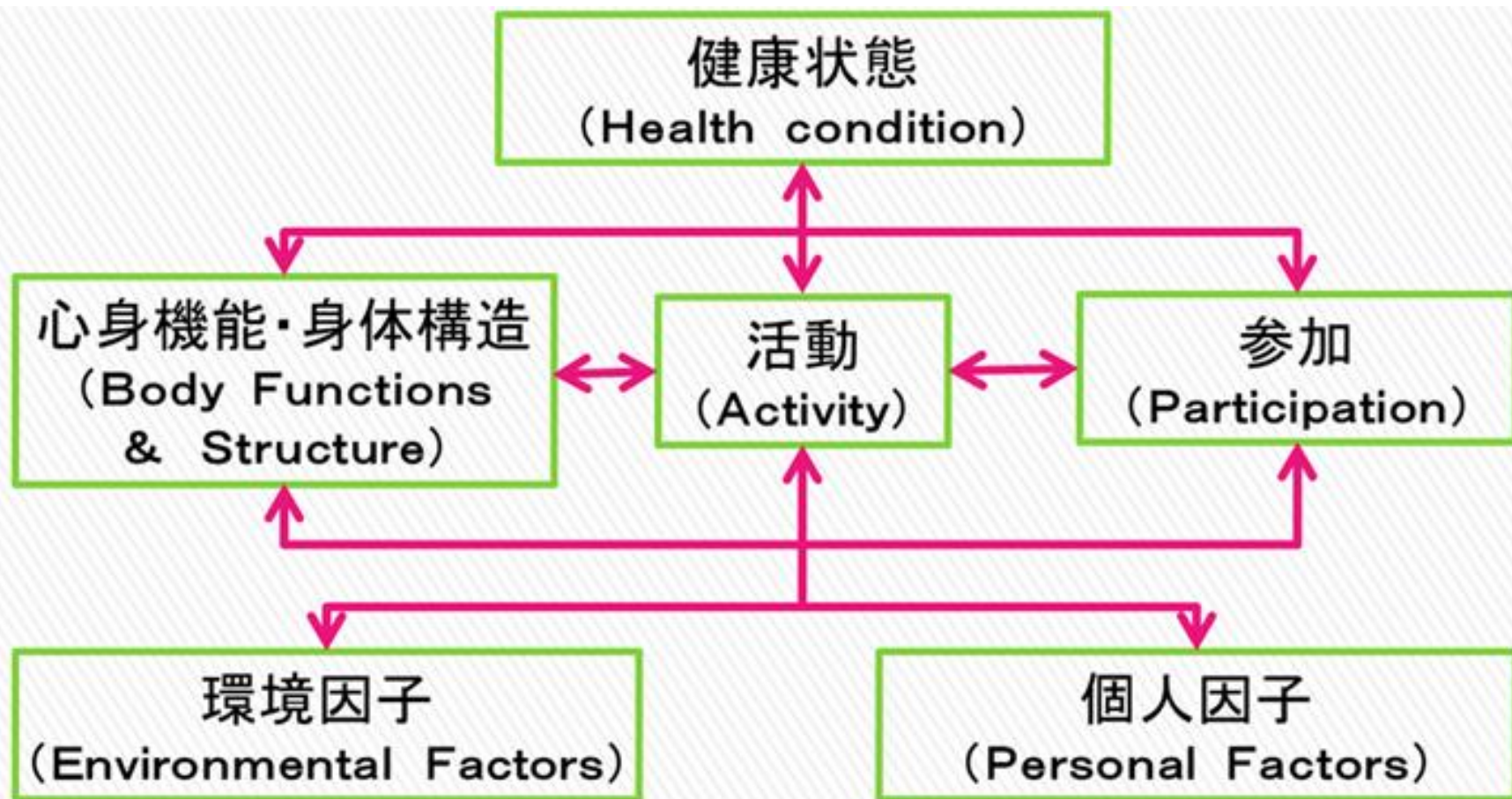
# WHO憲章「健康」の定義

Health is a state of complete **physical**, **mental** and **social well-being** and not merely the absence of **disease** or **infirmity**.

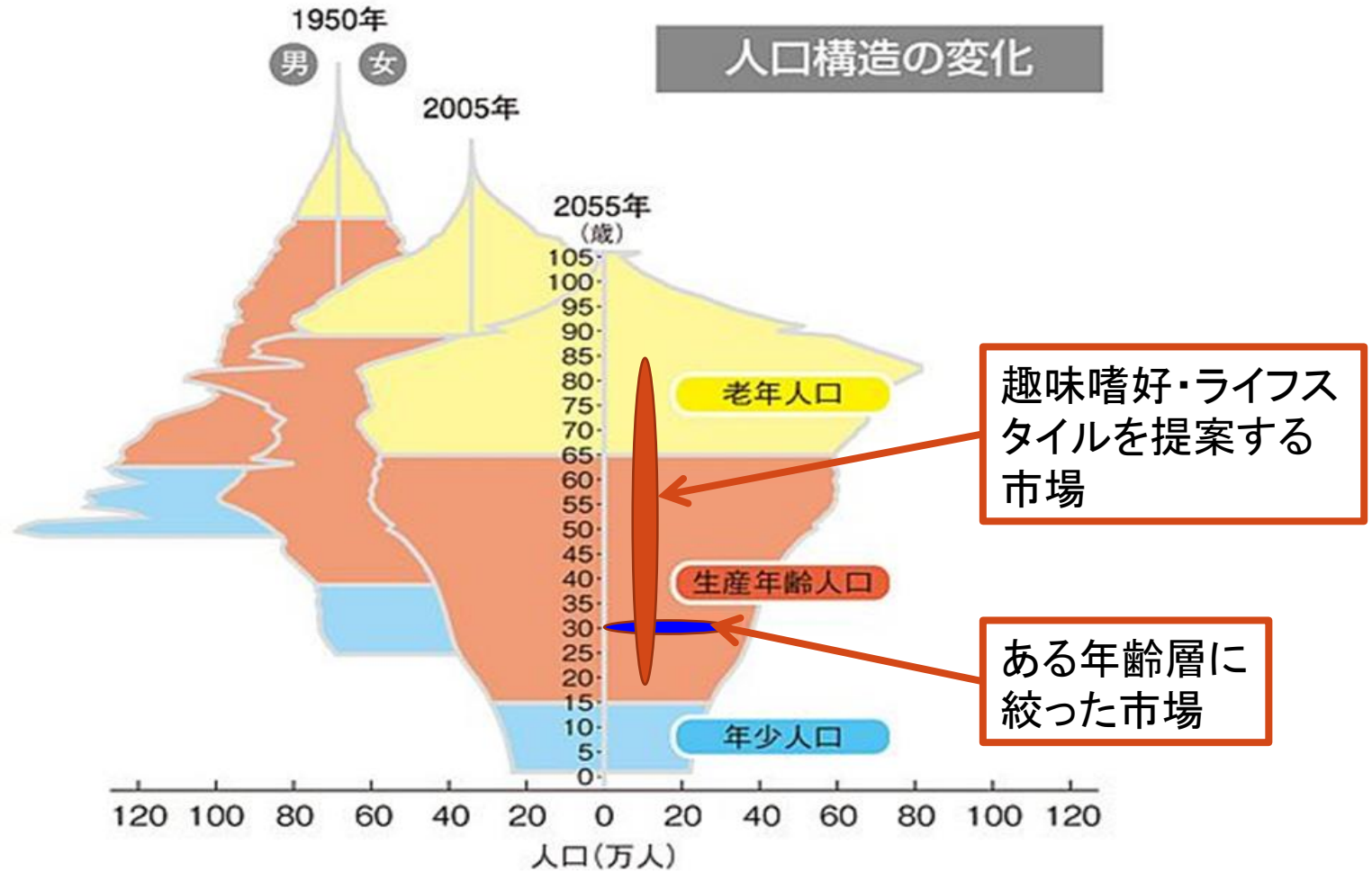
健康とは、**病気でない**とか、**弱っていない**ということではなく、**肉体的にも**、**精神的にも**、そして**社会的にも**、すべてが満たされた状態にあることをいいます。  
(日本WHO協会訳)

1946年7月22日にニューヨークで61か国の代表により署名

# ICF：国際生活分類（2001） 生活機能構造モデル

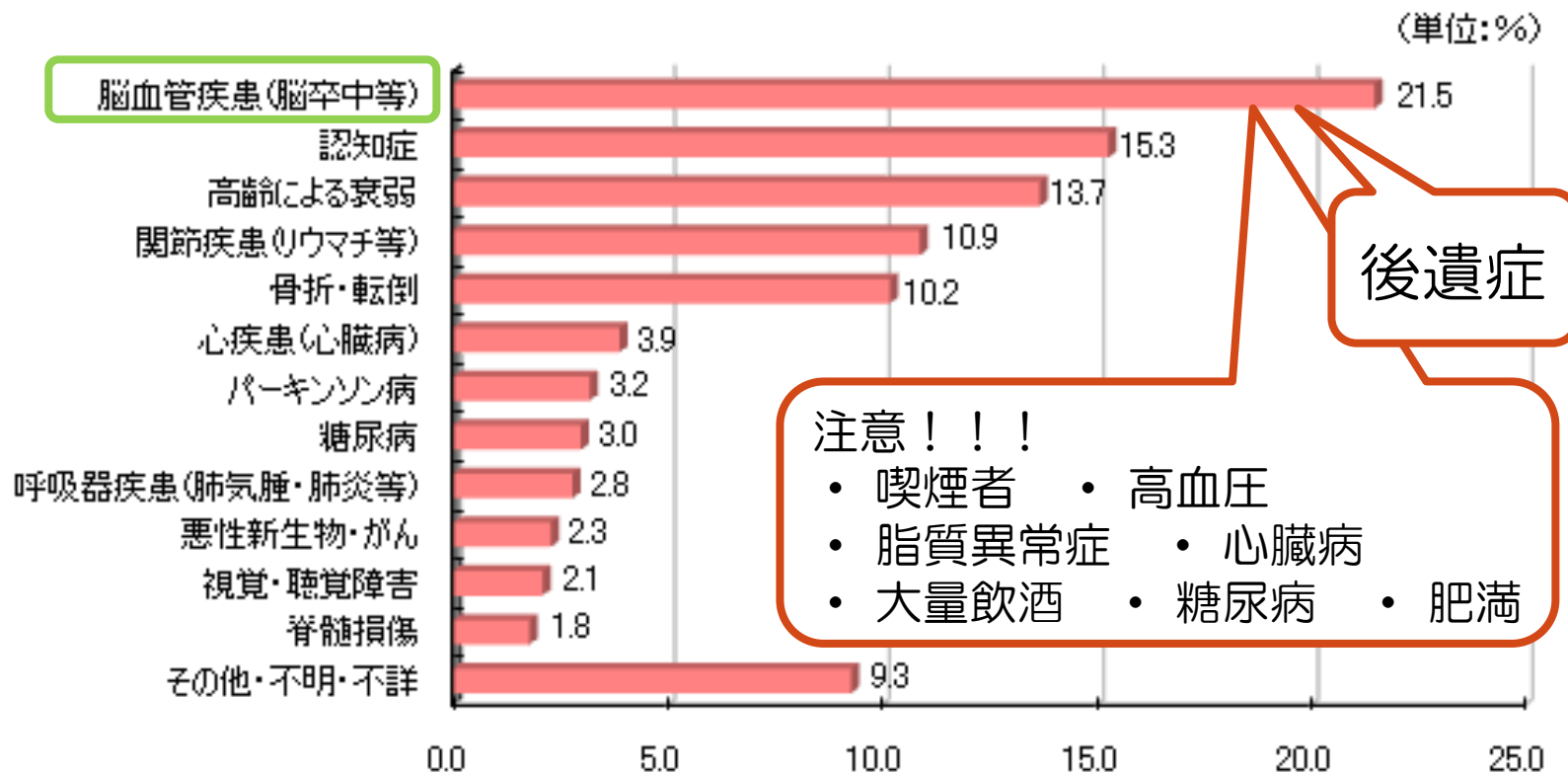


# 人口構成の変化と暮らしの多様性



出典：国立社会保障・人口問題研究所データ

# 介護が必要となる原因



# 【ユニバーサルデザイン】UDとは

## ◆提唱者     ロナルド・メイス 氏

米ノースカロライナ州立大学デザイン学部・デザイン学研究科

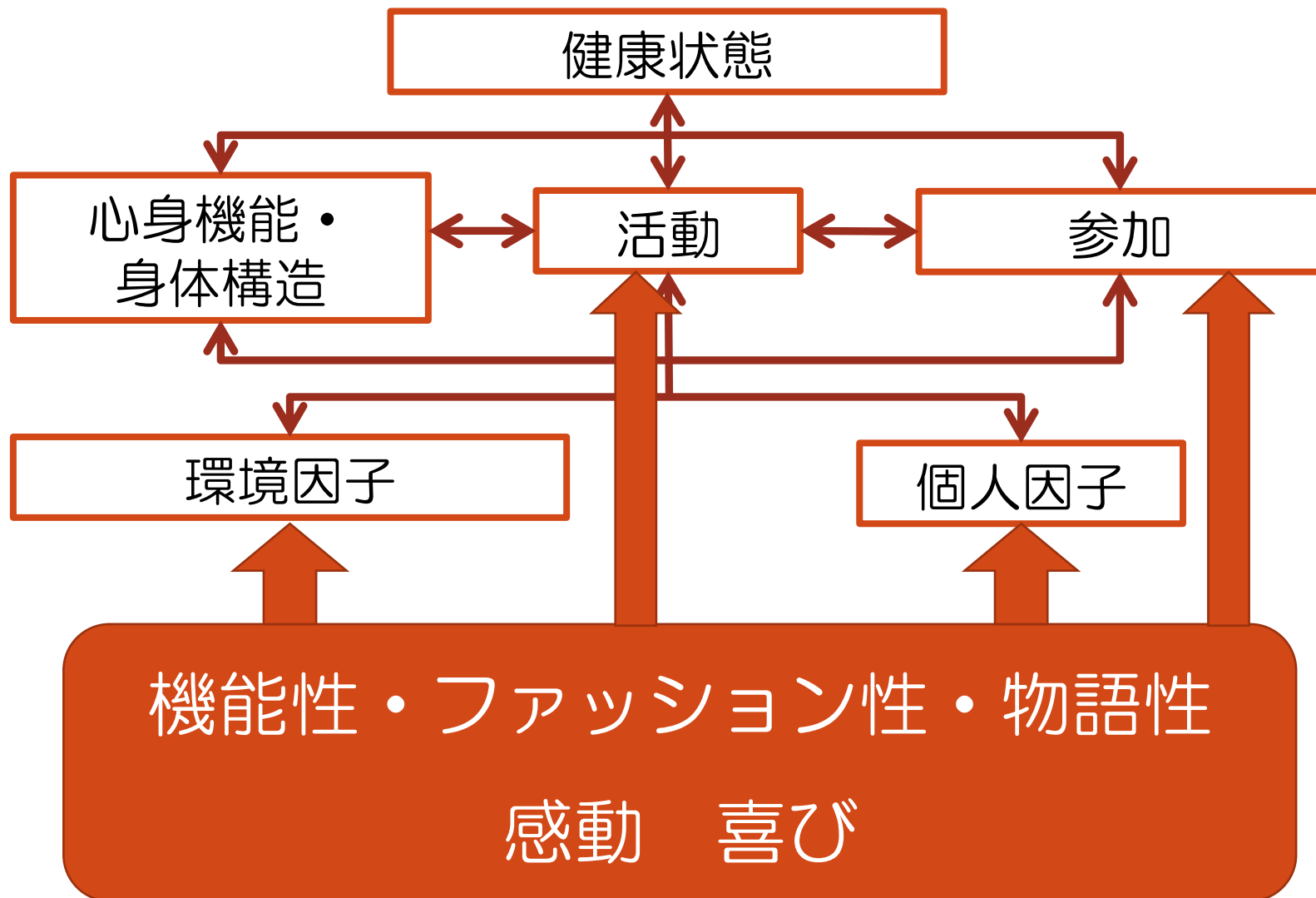
1985年に公式に提唱した概念

デザイン対象を障害者に限定していない点が、一般に言われる「バリアフリー」とは異なる

## ◆ユニバーサルデザインの7原則

- 1    どんな人でも公平に使えること（公平な利用）
- 2    使う上での柔軟性があること（利用における柔軟性）
- 3    使い方が簡単で自明であること（単純で直感的な利用）
- 4    必要な情報がすぐに分かること（認知できる情報）
- 5    うっかりミスを許容できること（失敗に対する寛大さ）
- 6    身体への過度な負担を必要としないこと（少ない身体的な努力）
- 7    アクセスや利用のための十分な大きさと空間が確保されていること（接近や利用のためのサイズと空間）

# 衣服にできること



# 衣服に関連した留意点 1

## 心身機能・身体構造 への対応

### ◆嗜好、体質

⇒ 色・柄、素材、質感、シルエット、ディテール等の選択肢がある

### ◆身体機能、サイズ

⇒ パターン・副資材の工夫、サイズバリエーション等の  
選択肢がある

## 活動・参加 への対応

### ◆セルフケア

⇒ ・手際よく着ること、脱ぐことができる

・適切な衣服の選択ができる

(ドレスコード、社会的・文化的習慣に従うこと、気候条件に合わせて  
更衣すること)

### ◆家庭生活

⇒ ・必需品の入手：必要な衣服を選択し、入手できる

・家事：洗濯と乾燥ができる

・管理：縫製、製作、修繕、アイロン掛け等ができる

### ◆他者への援助⇒ ・更衣の援助ができる



# 衣服に関連した留意点 2

## 環境因子 への対応

### ◆日常生活における個人用の一般的な生産品

※改造や特別設計はなされていないもの

- ⇒ ・ 多様な生活者を理解した製品作りへの配慮
- ・ 多様な選択肢がある

### ◆態度

- ⇒ ・ 衣服購入時の売り場の担当者の態度
- ・ 家族、親族、友人、知人、権限者、社会的規範としての態度

### ◆サービス

- ⇒ ・ 一般的なものと、改造あるいは特別にデザインされるものがある
- ・ 情報提供方法、売り場作り等の工夫
- ・ セルフケア、家庭生活、他者への援助を支援するサービスやプログラム
- ・ その他、配慮が必要な人への支援を目的としたサービスやプログラム